

大志

山岡中学校だより

令和7年度 7月末号



恵那市山岡町下手向 182-4 TEL 26-6882

みんな楽しそうでよかった

校長 後藤 琢磨

2年生の篠島研修で生徒たちは、暑さよりも仲間と遊ぶことに夢中になっていたと聞き、うれしく思いました。旅の思い出は、行き先よりも誰とどう過ごしたかが一番です。

さまざまな行事が終わると生徒たちは、振り返りシートや新聞などでまとめを書きます。その中に、「みんな楽しそうでよかった。」と書いている子がいます。この「みんな」の中には必ず自分も入っています。自分が楽しい、今が幸せだと感じている子は、他の仲間も楽しんでいるか見渡す余裕ができるようです。

では、自分が楽しくない時、他人を思いやることってできるでしょうか。私はできません。自分が不幸を感じ、すねている時に叱られても、怒りしか湧いてきません。



そんな情緒不安定な子を見つけると、なんとかして元気づけようとするのが、「みんな楽しそうでよかった。」と書く子たちです。気遣いのできる人はいつも笑顔が多いです。相手が何をしたら喜び、何をしたら怒るのか、笑顔の奥でしっかり観察しています。

情緒とは心のことです。心は心臓にあるのでしょうか。答えは脳（ノー）です。勉強をするのも悩むのも同じ脳です。だから、悩みがあれば勉強が手に付かないのは当然です。逆に、悩みを忘れさせるくらい勉強が楽しければ、情緒が安定することもあります。



この1学期、学校では、子どもたちの情緒が安定し、知的好奇心が高まるように、授業を研究し、行事の取組を工夫してきました。

どの学年にも、1学期に宿泊行事が位置づいているのは、仲間との絆を強めるためです。非日常空間の中で、仲間と活動を楽しんだ記憶は、2学期の体育祭や合唱祭に、いや将来に渡って力となることでしょう。

今年から夏休みが3日長くなりました。生徒の皆さん、家庭・地域の皆様、どうか健康にお過ごしください。